



東海大学大学院 2016年度 家族看護研究会

家族看護学研究室では家族看護を様々な理論やツールを用いて分析

今回は、慈恵医科大学病院 児玉 久仁子先生を迎え、
事例分析します。

事例紹介

「生後すぐに予後が短いと告知された染色体異常の新生児の家族—母親の受容困難とすれ違い—
助産師はどう関わればよかったか？」

プロフィール: 児玉 久仁子氏 (東京慈恵会医科大学附属病院 家族支援専門看護師・家族看護実践センター)

プロフィール

1999年東京慈恵会医科大学卒業。外科病棟に勤務し終末期看護に関心を持つ。
2004年より緩和ケア病棟に勤務。2010年東海大学健康科学研究科を修了。同年家族支援専門看護師を取得。

現在は、コンサルテーション活動のほか、家族看護実践センターにて看護職への教育活動を行っている。著書に、

DVDBOOK 臨床での家族支援 1～3 (日本看護協会出版会) がある。

2016年5月28日 土曜日

13:00～16:00

場所: 大学伊勢原キャンパス 3号館1階会議室

アクセス: 小田急小田原線「伊勢原駅」下車徒歩20分

バス10分(東海大学病院下車)

問合せ先: 0463-93-1121(代表) 担当; 井上

研究会ホームページ: <http://kazokuns.ihs.u-tokai.ac.jp>

メールアドレス: kazoku@tokai-u.jp

